

日本公論 第2号

第二号
平成一九年三月六日発行
郵便物不認可



特集 テロとは何か〈論文〉

座談会 松蔭の思想と顕義の志
いまこそ、学祖山田顕義の建学の思いを語ろう。

就職体験レポート
インターンシップを終えて。
継続企画 日米関係を考える
日本はアメリカから独立すべきか。

福田充助教授 連載企画
我が心の師 第2回
廣井 脩先生

日本大学法学部 福田充研究!

日本大学法学部の福田充ゼミナールのオビニオン誌である『日本公論』も第2号を迎えた。今回のテーマは「テロとは何か」である。

2001年のアメリカにおける9・11事件以降、「テロリズム」は世界のキーワードとなった。アメリカは「テロとの戦い」をスローガンに、アフガン戦争、イラク戦争を遂行してきた。日本でもテロ対策が政策の重要課題として認識されるようになった。

日本を「テロリスト」の温床にしない。テロリストがテロ資金のマネーロンダリングのために日本の銀行や地下経済を利用すること、テロリストが情報交換やコミュニケーションのために日本のネットワークやサーバーを利用すること、テロリストが世界中の移動のために日本の空港や航空機を利用すること、これらの行為を阻止するために、日本国内の法制度を改革してきた。いわゆる、日本をテロのプラットフォームに利用されないためのテロ対策である。こうしたテロ行為自体を阻止するためのプログラムが世界中で進展しつつある。そのテロ対策のためのグローバル・スタンダードが外圧として日本に要求されている。そして、10年前までは口にするこさえタブーであった有事法制、国民保護法制が、国民の合意の上に整備されている。こうした法整備や社会的システムは進んでいるが、果たして、「テロ」とは何か、「テロリズム」とは何を意味するのか、そもそも「テロリスト」とは誰のことなのか、こうした原理的な問題を追究してき

たといえるだろう。

私たちが現在対峙しているテロリズムとは、どのようなものなのか。歴史的に見れば、日本の元勲である伊藤博文をハルビンで暗殺した安重根は、韓国では民族独立運動の英雄である。テロ・ネットワークであるアルカイダのリーダー、オサマ・ビン・ラディンはイスラムの人々にとってどのような存在なのだろうか。

テロリズムは多元的な現象形態をとる。例えば現代でも、ロシアのチェチェン問題や、中国の新疆ウイグル自治区問題は民族独立運動としてのテロリズムの意味を持つ。チェチェンやウイグルにおける一部の人々がテロリズムと結びつかざるを得ない状況を生み出しているのは何なのか。同じく、反米を掲げながらイスラム過激派が世界中のネットワークを利用して拡大する国際的紛争としてのテロリズムは、世界共通の課題となっている。また、フランス革命に端を発するといわれる近代的な政治的闘争、階級闘争としてのテロリズムは、民主主義の問題と深く結びついている。ロシア革命のマルキストたちが、ドイツにおけるナチスが政治的テロリズムを利用したことは明白な事実である。

テロリズムとは闘争のための手段なのか。テロリズムには正義や闘争の価値が含まれるものなのか。テロリズムとは克服すべき問題、克服できる問題なのか。テロリズムは世界から根絶できるものか、またはするべきなのか。私たち現代人は、テロリズムの意味とふたたび向かい合わねばならない。我々の世代にとって世界共通の課題に、日本の学生が挑む場がこの『日本公論』である。この営みが世界の幸福、日本の幸福につながることを願う。

〈特集〉 テロとは何か、私たちはどうすべきか 6

- テロの本質的意味を知らずして、今日のテロ問題を語ることはできない 佐藤 健 7
- 4つの定義から考える日本対テロ国家戦略の策定 藤田 真史 11
- 対テロ戦争のためイラク問題に丸となるべき 鈴木 規史 15
- 新植民地主義が、テロを頻発させている 遠藤 望 19
- テロ解決には話し合いしかない 平野 千咲 23
- テロ組織が育たない国造りを 黄 燕 26
- まず話し合わなければ何も始まらない 林 千乃 29
- アメリカ依存からの脱却と国際協力 平川 絵梨子 33

〈座談会〉 松蔭の思想と顕義の志

・今こそ学祖 山田顕義の建学の思いを語ろう、 37

〈就職活動レポート〉 インターンシップを終えて 49

宣伝会議・佐藤 健 ジェイ・スポーツ・ブロードキャスティング・藤田 真史
毎日新聞社神奈川支局・鈴木 規史

〈継続企画〉 日本はアメリカから独立すべきか 58

- ここらの通い合う交流を 黄 燕
- アメリカの後ろではなく横に立つ日本を 平野 千咲

〈寄稿企画〉 暗中模索コラム集 64

ライク・ア・ローリング・ストーン 佐藤 健／報道は多くの人に影響を与え
受け手を結びつける 遠藤 望／理想のメディア社会には受けての努力も必要 林
千乃／今、メディアに求められる双方向性 平川 絵梨子／パブリシティ権における
定義の確立を 藤田 真史／研修紀行―自衛隊久留米駐屯地― 鈴木 規史
サッカー観戦記―鹿島アントラーズ対ジェフ千葉戦― 林 千乃

◎年表で見る3期生の“跡” 78

連載企画〈第二回〉 我が心の師

廣井 脩 先生（元東京大学社会情報研究所教授） 福田 充 82

編集後記 86